

SWOT分析「地域経営実践士初級講座の開設」(26.5.25)

今後想定する状況(5年後)	
<p>(S:Strengths) 強み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「事起こし」で実践する。 ・講師陣がそろっている。 ・2年間の開講が礎にある。 ・テキストによってまちづくりを体系化している。 ・テキスト内容が他に無い。 ・四面会議システムは最高のプレゼンの武器である。 ・福島被災者の方の思いが聞ける。 ・座学・フィールドスタディ・合意形成・プレゼンと一貫して学習できる。 ・大学・社会人ともプログラムが提案できる。 ・上級編は初級・中級・耕読会とルーチンして学習する場は得難い。 ・自らが学び受講生も学ぶプログラムになっている。 ・初級の演習課題を設定している。 	<p>(O:Opportunities) 外の環境：チャンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各大学が地域学習を捉えている。 ・3.11によって身近な地域社会に関心が高い。 ・社会に閉塞感がある。 ・身近な地域社会に対して何とかしたいという思いがある。 ・65歳の高齢者の人口が1/4になった。 ・まちづくり等の動きは各地にある。 ・身近な地域社会を何とかしたいというニーズがある。 ・政治・政策に幻滅している。 ・自分がやらねばと関心が高い。 ・幸せは家庭と身近な社会関係と気づきはじめた。 ・高齢者は会社との関係が薄れている。
<p>(W:Weaknesses) 弱み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい受講生が確保できていない。 ・女性の受講生が少ない。 ・女性のファシリテーターが育ってない。 ・名簿の獲得ができないためDM等で塾の案内をすることができない。 ・四面会議システムのファシリテーターが育っていない。 ・経済基盤が弱い。 ・地域経営実践士という認定が社会認知されていない。 ・受講生が地域経営まちづくり論を学習段階である。 ・マスコミに投げかけていない。 ・本を出版していない。 ・塾の存在がPRされてない。 ・世の中の風潮として軽薄化している。 ・レポートを書くことが難しい。 	<p>(T:Threats) 外の環境：ピンチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域経営実践士が社会で全く認知されていない。 ・自分のことだけに終始している。 ・高齢の女性は旅行・男性は何も関心をもたない症候群がみえる。 ・利己主義が蔓延している。 ・人生を充実しようという気がみえない。 ・ゲートボール等に興じている。 ・世の中、建設的なことを諦めている。 ・刹那的で今日が明日になれば良いと思っている。 ・金も身も行動も社会に提供することは損と思っている。 ・徳は孤にあらず、隣にあることを認識していない。 ・いつまでも会社に囚われている。